

ト Z 機動戦士ガンダム SEED DESTINY

ドムトルーパー

機体名	ドムトルーパー	画像
型式番号	ZGMF-XX09T	
英語名	DOM TROOPER	
所属		
パイロット	ヒルダ・ハーケンマーズ・シメオンヘルベルト・フォン・ラインハルト	
装甲材質		
装備	MMI-GAU25A 20 ミリ CIWS × 2G14X31Z スクリーミングニンバス MX2351 ソリドゥス・フルゴール × 2JP536X ギガランチャー DR1 マルチプレックス MA-X848HD 強化型ビームサーベル EX-EZ1200 イージーウィザード	
作品名	機動戦士ガンダム SEED DESTINY	
参考書籍		

内容

ザフトでは前大戦終結後も MS 開発が行われ、数度のコンペティションが行われた。

「ドムトルーパー」はザクの先行試作型である「ZGMF-X999」の設計思想から派生し、ザクと同じウィザードと呼ばれるバックパックの換装によって様々な戦局に対応できるよう想定された機体であり、後にザクに採用されたウィザードはほぼ全て換装可能であった。

当初はミラージュコロイドの使用も想定された機体であったが、ユニウス条約締結でその使用が制限されるとそのコンセプトが宙に浮いてしまった。

また、主に重力下での使用を想定した大型のホバリングユニットを脚部にマウントし、その鈍重なシルエットとは裏腹に地形によっては2足歩行のMSよりも高速な移動が可能な反面、高出力化されたスラスターや、特殊な技量を要するホバリング駆動は前大戦でジンやゲイツでの戦闘を経験したパイロットが多数を占めるザフト内では不評であり、数機が試作された段階でコンペティションからは外され、乗り継ぎが容易なMSの開発が継続、最終的に「ニューミレニアムシリーズ」として「ZGMF-1000 ザクウォーリア」が採用されることになる。

「ZGMF-XX09T」とされた形式番号の末尾にある「T」はガンダム系MS以降のサードステージでの復活を望んだ開発陣の願いとされているが真相は定かではなく、ザフト内では欠番とされている。

しかし、意外な形でこのMSが実戦に参加する。

ギルバート・デュランダルによるロゴス討伐を目的としたオーブ侵攻にあたって、エターナルからストライクフリーダムと共に地球に舞い降り、本来友軍となるはずであったザフトMSの攻撃からオーブを守るのである。

これは旧ライン派により前大戦以降エターナルが隠されていた岩礁内の工場で極秘に生産されていたものだが、先のコンペで使われた生産ラインまで想定したプレゼンテーション用資料が何らかの経緯でライン派へ流出し、容易に量産できたためと思われる。

ドムの名称は Dauntless Obliterator Magnificent (壮なる不屈の抹殺者) という意味を持つが、これは当初の開発段階に付けられたもので、クライン派の意向ではない。

備考

スペック

項目	内容
全高	17.48m
頭頂高	
重量	79.4t
全備重量	
ジェネレーター出力	
スラスタ推力	
センサ有効半径	